

令和7年度 事業報告書

令和7年4月1日から

令和8年3月31日まで

学校法人今村学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 今村学園（昭和 26 年 9 月 19 日法人設立）
代表者 理事長 瀧本 一慶
住所 高槻市高槻町 3 番 1 6 号
電話 072-685-0247
F A X 072-683-3685
HP <https://www.imamura-gakuen.ed.jp/>

設置する施設名

- ① 名称 幼保連携型認定こども園 いまむらこどもえん／園長：岡田美保
住所 高槻市高槻町 3 番 16 号
電話 072-685-0247
F A X 072-683-3685
- ② 名称 小規模保育園 necco きたその／施設長：向畑真希
住所 高槻市北園町 2 番 22 号
電話 072-668-2751
F A X 072-668-2752
- ③ 名称 小規模保育園 necco たかつき／施設長：橋本紀子
住所 高槻市高槻町 6 番 3 号
電話 072-669-9907
F A X 072-669-9908

役員

理事 5 名
監事 2 名
評議員 11 名
理事会 2 回開催
評議員会 2 回開催
職員 87 名（内常勤 51 名） ボランティア 1 名（2026.3 月末日）

2. 事業概要

《理念》

乳幼児期の保育、教育は小学校の予備ではありません。
教えるのではなく育てるのです。適切な養護を加え、伸び伸びとした生活を与えること、無理のない
躰け方によって良い習慣を体得させ、人格教育の素地を作ります

《保育・教育目標》

生きること、学ぶことの 根っこを育てる

《めざす子ども像》

いのちを大切にする子ども

《保育・教育方針》

・自然に触れていろいろなことを感じる心身を育てる

- ・本当のことを知ろうとする意欲を育てる
- ・素直に表現し、創造する喜びを育む
- ・友だちを大切に思う心を育てる

《園児数》2026.3月末

いまむらこどもえん定員 1号認定子ども 48名 2号認定子ども 99名
3号認定子ども 48名 計 195名

	R7年度	クラス数
0才	9	1
1才	18	1
2才	24	1
3才	54	異年齢 クラス 6
4才	56	
5才	54	
合計	215	9

necco きたその 定員 0歳児 3名 1歳児 8名 2歳児 8名 計 19名

	R7年度	クラス数
0才	5	1
1才	8	1
2才	9	1
合計	22	3

necco たかつき 定員 0歳児 3名 1歳児 8名 2歳児 8名 計 19名

	R7年度	クラス数
0才	5	1
1才	8	1
2才	9	1
合計	22	3

《保育時間》

1号認定こども 月～金曜日 午前8時30分～午後2時00分(～午後3時半)

2・3号認定こども 月～土曜日 午前7時00分～午後7時00分

《公定価格》

利用者負担金 1・2号認定こども 保育料無償

3号認定こども 高槻市で定められた額

《教育充実費》

1号認定子ども 3歳児 月額 13,000円 4・5歳児 月額 15,000円

2号認定子ども 3歳児 月額 14,000円 4・5歳児 月額 16,000円

《実費徴収》

- 1号 主食費 2,000 円/月+副食費 4,500 円/月+おやつ代 900 円/月=合計 7,400 円/月
2号 主食費 2,500 円/月+副食費 5,600 円/月+おやつ代 1,600 円/月=合計 9,700 円/月
3号 午睡用コットリース 800 円/月、エプロン・おしぼりリース代 200 円/月、布おむつ 4,600 円/月
(0 歳児)

《その他の費用》

検定料(幼児) : 7,000 円 (連携園 5,000 円) 進級・入園受入準備費 (幼児) 50,000 円
入園時購入 : 個人持ち用品・被服代 (幼児) 約 17,000 円

《一時預り保育料金》

- 1号認定こども (利用については回数の制限あり、新 2号常時利用児については制限なし)

月・火・木・金

午前の部	午前 7 時～8 時 10 分	5 円/分
午後の部	午後 4 時～6 時	150 円/30 分
	午後 6 時～7 時	300 円/30 分

水曜日など半日保育日

午前 11 時 30 分～午後 6 時 150 円/30 分
以後上記に同じ 長期休暇の預かり保育もあり

《延長保育料金》

- 2号認定こどもはそれぞれ認定された時間以降

- 保育短時間 (8 時間認定) の場合

午前の部	午前 7 時～8 時	5 円/分
午後の部	午後 4 時～6 時	5 円/分
	午後 6 時～7 時	10 円/分

- 保育標準時間 (11 時間認定) の場合

午後の部	午後 6 時～7 時	10 円/分
------	------------	--------

- 3号認定こどもはそれぞれ認定された時間以降

- 保育短時間 (8 時間認定) の場合

午前の部	午前 7 時～8 時	7 円/分
午後の部	午後 4 時～6 時	7 円/分
	午後 6 時～7 時	15 円/分

- 保育標準時間 (11 時間認定) の場合

午後の部	午後 6 時～7 時	15 円/分
------	------------	--------

《未就園児親子クラス日時》

- まめっちょくらぶ

毎週火曜日 10 時～11 時 (4・8 月は除く)

《行事実施状況》

園外保育、畠活動、園庭・原の田おこし・田植え・収穫、七夕の集い、おはなわくわく会、うんどうの日、いまむらファミリー、クリスマス会、餅つき、耐寒登山、節分の集い、歌とリズムと朗読の会、卒園式、入園・進級式等

《施設関係》

園舎面積 1, 837. 63㎡

園庭面積 731. 53㎡

《設備関係及び事業内容》

園内畠に木製レイズドベッドおよび金属製レイズドベッドを設置し、栽培の土の管理がしやすくなったため、野菜の収穫量が増え、子どもたちが収穫の喜びをより多く体験できるようになった。あわせて、生育の変化に気づきやすくなり、日々の観察や世話への関心も高まっている。さらに、土づくりや水やりの大切さを実感する中で、食や自然への理解を深める機会にもつながっている。

砂場の砂の流出防止も兼ねて、砂場の周りに低いフェンスやおもちゃの棚を設置し、遊びの範囲がゆるやかに意識されるようになった。砂の流出そのものを大きく抑えるまでには至っていないものの、子どもたちが場を意識しながら遊ぶ姿や、道具を手に取りやすく、使った後に戻そうとする姿が見られるようになってきている。また、遊びの拠点が整ったことで、落ち着いて遊び込む姿にもつながっている。一方で、棚やテーブルの形状や配置については、子どもの動線や遊びの展開により適したものとなるよう、今後も見直しを重ねていく必要がある。

保護者も保育者も子どもを真ん中に、共に育ち合う関係を強くし、毎日を楽しもうという趣旨で、新しい保護者会のかたち『いまむらファミリー』と題し、様々な活動、ワークショップなどを企画した。

保護者と保育者が子どもを中心に据え、共に育ち合う関係の深化と日常の充実を目的としている。各種活動やワークショップを企画・実施し、多くの保護者の参加を得ることができた。中でも、保護者主催によるリサイクルマーケットは盛況のうちに実施され、保護者同士および園とのつながりの広がりにも寄与した。

また、安部司氏を招き、食品添加物に関する学習会を実施した。本学習会は保護者への啓発に加え、職員研修も兼ねて実施し、食の安全に対する理解と意識の向上を図った。

さらに、フォトジャーナリスト長倉洋海氏による講演会を開催した。講演では、「これまで自分の歩みを支えてくれた存在は誰であったか」「自分は思い描いていた大人の姿に近づいているのか」といった問いを通して、一人ひとりの生き方や在り方を見つめ直す機会となった。保護者・職員双方にとって、子どもに関わる大人としての姿勢を考える契機となった。

＜いまむらこどもえん＞

幼児クラスでは異年齢保育5年目となり、より深く遊びや生活の中での様々な活動を通し、ゆっくり、しっかり育ち合うこと、子どもたちの話し合いで物事を進めることができるよう配慮した。子どもたちも大きな変化のない環境で落ち着いて過ごし、友だちとの関係を結ぶことができ、お互いを尊重する心が育っている。

引き続き、高槻市原地区の里山において、自然の中での体験活動を実施した。四季折々の自然の美しさや驚きに触れる中で、子どもたちは表情や言葉、絵などで感じたことを表現し、友だちや保育者と共感し合うことを大切にしてきた。

また、原地区では地域の方々の協力を得て、米・さつまいも・大豆の栽培を行い、園の田畠においても米づくりおよび職員による大豆栽培に取り組んだ。さらに、地域の方のご厚意により川遊びの場を提供していただくなど、自然環境を生かした多様な体験の機会を得ることができた。

一方で、近年の猛暑の影響を踏まえ、種まきや苗植えの時期については見直しが必要であり、今後の実施時期や方法について検討していく必要がある。

新たな形の保護者・保育者・子どもの集まりとして、「いまむらファミリー」の活動を企画・運営している。子どもたちだけでなく、広く保護者にも各種保育活動への参加を呼びかけることで、子どもたちが感じていることを追体験していただき、保育・教育内容への理解を深める機会となっている。

また、保護者には、necco たかつき・きたそのの保護者も含め、学習会や各種ワークショップにも参加していただいている。

乳児は育児担当保育により、個々の育ちをじっくり見ながら必要な援助をし、穏やかに毎日を過ごすことができた。

わらべうたプロジェクトチームを立ち上げ、0～5歳までの日常の活動として共通のプログラムを設定し、月ごとに動画等で配信・提示することで、園全体で積極的にわらべうたを取り入れてきた。

また、0～5歳の子どもの身体や心の育ちを見つめ、子ども同士のつながりを大切にした保育を進めるため、プロジェクトチームを中心に丁寧な話し合いを重ねてきた。

子育て支援については、5月下旬より園庭開放まめっちょを実施し、多くの親子の来園者に対応し、子育て相談を受けるなどした。

一般を対象に乳児、幼児とも園の見学会を実施し、多くの来園者（乳児約100名、幼児約80名）に保育の状況や園舎内外の見学、保育教育方針などをお伝えすることができた。

在園の保護者に関しては担任や園長およびキンダーカウンセリングを利用していただくなど随時疑問点や様々な相談に応じ、子育ての悩みの共有、軽減に寄与した。

<小規模保育園 necco きたその・たかつき >

今村学園の保育理念のもと無事一年を終えることができた。

いまむらこどもえん乳児クラスとも連携を取り、情報交換を密にすることによって、安心安全な保育環境の構築に努めた。また、施設間の交流を図り、保育内容の相互理解に努めてきた。また、いまむらこどもえんの子どもたちとの関わりを持つ中で、場所や人、物などの環境に親しみが持てるよう配慮してきた。

<まとめ>

保育・教育内容の発信として、クラスだよりや園だよりの発行に加え、メール配信アプリによる日々の子どもたちの様子の共有、Instagramでの発信、さらに幼児クラスにおいては行事に向けた期間限定の写真・動画共有アプリの活用など、多様な方法で工夫してきた。

今後も、小規模保育園 necco きたその、necco たかつき、いまむらこどもえんが一体となり、様々な活動を通して、どの施設・どの年齢の子どもも、身体で感じ、考え、自ら動くことができるよう、保護者と保育者が共に協力し合いながら過ごしていける環境を整えていきたい。

また、プロジェクトチームを中心に、わらべうたの実践や、0 歳から 5 歳、そして就学へとつながる切れ目のない保育・教育内容について研究を重ねている。どの保育者にとっても理解しやすいよう、目的や方法を周知し、各現場で自分なりに活かすことができることを目指している。

さらに、今村学園の保育の核となる大切な視点については、保育者を具体的に支え、保育の継承を図るため、コア・サポートチームを立ち上げた。行事や栽培、生活、遊び、保育者のこころなどについて各種コアペーパーとして整理・発行し、継承しやすい形で共有していく。